

基本方向 1

親子間の愛着形成の促進

伸び伸びと遊ぶ子供 にしましょう

乳幼児期の子供は、身近にいる保護者や幼稚園教諭・保育士・保育教諭などの保育者による愛情豊かで受容的・応答的な関わりを通して相手との間に愛着関係を形成し、これをよりどころとして、人に対する信頼感を培っていきます。また、周囲の大人から愛され、受け入れられ、認められていることを実感することで自己肯定感をはぐくんでいきます。乳幼児期における親子間の愛着形成は、子供の心の健全な成長・発達、特に、物事に安心して積極的に関わろうとする姿勢を無理せずゆっくりと養い育てることに大きな役割を果たします。



取組1

親子でのふれあいの すすめ

子供の成長に
どう関係する
ものなの？

情緒の安定 他者への信頼感 自己肯定感
コミュニケーションの土台 言葉の理解
自我の芽生え など



優しく見つめておしゃべりしましょう



子供と直接触れ合って遊びましょう



絵本を一緒に楽しみましょう



十分なスキンシップをとりましょう

優しく見つめておしゃべりしましょう

自分を優しく見つめておしゃべりしてくれる大人に子供は親しみを感じ、安心感をもちます。次第に声や表情での感情表現も豊かになり、積極的に大人との関わりを求めるようになります。このような大人とのやり取りの心地よさが、人に対する信頼感の育ちにつながり、コミュニケーションの土台につながります。

子供とおしゃべりするときは、視線を合わせて優しく語りかけましょう。

子供と直接触れ合って遊びましょう

あやし遊びや手遊びなど大人と直接触れ合って遊ぶことを通して、子供は大人と心が通い合う喜びを感じ、次第に大人の動きに合わせて楽しんで体や手足を動かすようになります。また、子供は、わらべうたなどのゆったりとした調べに安らぎを感じたり、大人と一緒に歌おうとすることで自分の思いを表現したいという気持ちをもつようになります。

子供と一緒に遊ぶときは、テレビを消し、スマートフォンなどの操作をやめて、一緒に遊びを楽しみましょう。

絵本を一緒に楽しみましょう

大人の落ち着いた優しい声と共に絵本に触れることで、子供の気持ちは安定していきます。大人と子供の対一の関わりである読み聞かせは、絵本の世界を一緒に分かち合ったり、子供が大人の愛情を受け止めたりする経験になります。また、絵本は子供に新たな言葉との出会いをつくり、言葉の感覚や語彙を豊かにするとともに、子供のイメージの世界を広げます。

子供を膝に乗せたり、添い寝などをしたりしながら、絵本の読み聞かせをしてみましょう。

十分なスキンシップをとりましょう

子供が積極的に周囲に目を向けて関わるようになるには、子供の心が安定していなければなりません。大人との温かなやり取りや十分なスキンシップを受けることにより、子供の情緒は安定します。スキンシップによって得た安定感は、心の健康を育てる上で重要であり、子供が自立の方向に向かっていくために欠かすことができないものです。

肌と肌のふれあいの温かさを感じるスキンシップを十分にとりましょう。